

シミュレーション1（アメリカが強硬姿勢をとった場合）

【追加シナリオ】

トランプ政権は、北朝鮮がアメリカを抑止できると信じ込めば、恫喝外交を重ねてさらに危険な事態に陥ると判断し、これまでに探知されている ICBM をすべて攻撃するという方針を定め、トランプ大統領は文大統領と安倍首相に対して、右方針に対する支持と必要な対応策をとるように要請。しかし日韓ともに世論は北朝鮮への攻撃に消極的で、さらに中国とロシアも北朝鮮の要求を精査しながら平和的な解決策を探るべきとの提案を行った。

【シミュレーション概略】

《アメリカ》

目標

ICBM の除去

外交

日本、韓国から北朝鮮への共同軍事作戦に同意を得ようとし、日本からは同意を得たものの韓国には拒否されてしまった。中国とロシアからは、ICBM の中露主体による除去と引き換えに石油を含む人道的支援の公的容認を求められ、この内容は国連安保理でも提案されたが、北朝鮮が在韓米軍の撤退を求めるなどしたため、アメリカは拒否権を行使し、軍事作戦の存在を公表、訓練を開始した。

《日本》

目標

日本国民の安全を第一とし、その上で長期的目標としては、北朝鮮の核廃棄及び金一族の排除による事態の平和的解決

外交

アメリカとの共同軍事作戦に賛成したものの、戦争を避け平和的に解決することを目指し、アメリカが攻撃しなくてもよい状況を作ろうとした。その一環として中国とロシアに、アメリカの目標である ICBM の除去に協力するよう働きかけたり、韓国と足並みをそろえるため歴史問題を棚上げした。

《韓国》

目標

周辺国と連携しながら、北朝鮮の暴走を阻止

外交

アメリカによる軍事作戦には賛成せず、対話路線への転換を呼びかけるも失敗。中国、ロシアとは対話による解決を目指す方向で一致。また、日本との歴史問題は棚上げ。

《中国》

目標

米国の軍事的プレゼンスを排除しつつ、緩衝地帯としての北朝鮮を保持するため、北朝鮮の軍事行動を制止し戦争を回避

外交

北朝鮮に対しては人道支援や石油密輸と引き換えにサイバー攻撃を含む全ての攻撃をやめるよう呼びかけ、一方でアメリカに対しては北朝鮮を抑制させるためとして人道支援を認めるよう提案した。また、戦争回避のためロシアと共に北朝鮮の ICBM 除去に取り組むことで合意。韓国に対しては、アメリカのプレゼンスが高まることを恐れ、38 度線を越えての反撃は控えるよう要請。

《ロシア》

目標

長期的目標は、米国のアジアにおける勢力拡大阻止。中期的目標は、北朝鮮の体制維持。短期的目標は戦争回避(ICBM の除去)。

外交

中国と協調して ICBM 除去と引き換えに人道支援を実施することを目指し、米中口の三ヵ国協議や国連安保理を開き訴えたが、北朝鮮が国連安保理決議に対して条件を付けたためまとまらなかった。その後北朝鮮に対し ICBM を除去しなければ関係を断つと脅したが北朝鮮は譲らず。その間にもアメリカは空母 5 隻による訓練を開始するなど緊張はエスカレートし、最終的には北朝鮮からドローンによる攻撃を受ける。

《北朝鮮》

目標

金体制の維持、石油支援確保

外交

中国から石油密輸と引き換えに攻撃停止を求められ、これを受け入れる。しかし、ロシアからは ICBM 除去を求められ、見返りとして人道支援を示されたが、核開発凍結はできても ICBM 除去はできないとして拒否。逆に人道支援をしなければ核開発を加速させると脅したが効かず。その後の国連安保理の決議案(北朝鮮のミサイル即時撤去(発射台からの撤去)、北朝鮮の合意が取れば石油を含む一時的な人道支援を国連の監視下の下行う。北朝鮮に対する体制介入は行わない)に対して条件(1. 国連の監視下で

はなく中国・ロシアの監視。2. アメリカの韓国からの軍事的撤退) を付けたところさらに緊張が高まる。最終的にロシアの極東諸都市に向け、北朝鮮の VX 搭載ドローン 2,000 機による無差別飽和攻撃を実施。また、黄海・日本海において過去最大規模の核実験を実施した。

《教授コメント》

- ・アメリカの軍事攻撃を制止しようと、日本、韓国、中国、ロシアの 4 か国に連携の動きがみられたのは注目すべき点
- ・アメリカの一国主義が目立った
- ・ロシアが国連安保理など多国間交渉の場を用いて事態を進めようとした点は興味深い
- ・ICBM の「除去」が何を指すのかを具体的に共有できていた